

昭和16年9月1日（月）

曇り、午後より幾分霽れる。風冷。鶴市神社神輿は南町を通過せざりし。前田氏棒給検査、午後飯局。臨時80銭支給、辞令交付。六時まで為替を見習ふ。此夜、坊や寝付き悪く、余を困惑せしめたり。睡魔来襲。坊や寝付き悪く、夜安眠し得ず。七時三十分、湯を遣ひやる。

昭和16年9月2日（火）

快晴。切手請求に行かる。前田氏、昨日より採用80。昨、裸体にて横臥し風邪を引く。熱はなし。午後一時、切手受取に行く。局長室主事、猶残り居る。夕、団子を頂く。夕方横田氏に澄子来津の旨咄す。夕方風呂に連れ行かる。澄子早く上がりて坊を連れ来る。午後十時過ぎ坊に牛乳遣り、湯を浴びせること例の如し。今夜は克く寝る。気温暖かにして、毛糸の肌着のみ掛けて遣る。

昭和16年9月3日（水）

快晴。午後より幾分雲出て、四時頃より積雲、空を蔽ふ。小雨降り出づ。少時に歇む。澄子を連れ、午前十一時より貰い飯を、横田氏かかり行く。其の時、初めて澄子を連れ行き、饅頭一円分を持参。次いで市内にて素麺をあさり廻り、一人一把と云ふを、澄子分と二把を求め来らる。夜に入り澄子、再び素麺を求めに今度は野口森田さんを誘ふ。一人一把と云ふ故、人を換え行けるなり。品切れと称して、売って呉れずと云ふ。七時湯を遣わす。午後零時二十分切手請求に行く。夜に及び、澄子野口森田氏を誘って行く。

昭和16年9月4日（木）

降雨。おしめ火にて乾燥して頂く。午後一時、横田小母さん来る。一時間以上早し。時計直しにきたりし次いになりとて寄り、坊や恰度、乳首落とし間泣き出したる際とて、其の俣起こして乳を与ひらる。愛国パン、恰も余等に茶請けに求められたるを出し、其の俣、四ヶ土産とさる。澄子午後夕食後、巖方に至り此の夜泊まる。夕食の副食物は澄子の調理に出づと云ふ。六時林こう子三十日夜より病氣。今朝午前二時死去。午後六時葬式。ミワさん参列。永江しづめ氏見ゆ。挨拶さる。此の頃、雨歇む。林へは香奠二円す。

昭和16年9月5日（金）

昨、野口氏拾円欠損。本朝五円補助す。坊やの腸悪し。昨三回目の乳は、余り接近したる為の現象と認む。朝、四時頃降雨。十一時頃、再び少雨。雨風可なり強く、天候恢復の兆しあり。澄子十時頃販る。うどん粉百円程、貰ひ来る。母堂小魚を求め料理して、澄子に揚げて貰ふと待侘びて居らる。野菜類をも揚ぐることにし物色。油は広谷氏より五合、特別分配さる。勝手にて揚げたる為、芳香事務室に満つ。四時前夕食を済ます。森田さん方へ寄贈、例の如し。饅頭も揚げて貰ふ。愈々明朝、十一時の汽車にて出発することとしたり。

昭和16年9月6日（土）

好晴、五時坊を起こし神詣で。余街路の洒掃（しゃそう）を、おしめの洗濯を、各室の掃除を了す。横田政恵さん十時に来て呉れ、勝江ちゃんの日方を量る。恰度二貫目。坊は一貫百匁余り。十一時二十分出発。ミワさんホーム

内に入って来らる。定時発車。余は和服を着、坊を抱く。澄子は水筒やら土産品やら、坊の付帯物と共にかなりの荷物なり。小倉では漸く座席を得たるも、澄子は立つ外なかりし。折尾にて澄子も余の傍に座席を得たり。三時到着の分、十分程遅着。道子迎えに来て居る。南新町にてバスを待たで徒歩。横田氏土産は「どりこの」。小鰯煮付けにて食事す。夜、可なり冷ゆ。

昭和16年9月7日（日）

快晴。坊を五時半起こし、手拭いにて全身を拭へ、三十分程川沿ひに散歩。睡るを機に販り、寝かす。七時前と四時過ぎ牛乳配達。両回共、配達を受くることとしたり。低温殺菌とて長時間の保存に適せずと云ふ。午後五時頃も、食消化に坊を連れ三十分程外出す。午後、多少雲出でたるも晴天にて終始す。東北電力へ配当金請求す。

昭和16年9月8日（月）

朝来幾分曇り。夜来風寒く、蚊帖吊らず。階下も同様。蚊遣り香焚き居たる様子。朝六時、坊を起こし三十分外出。昨、快晴にて裸体として日光浴せしめたるが、今日は朝より寝巻を坊に着せ外出。陽射しも裸体に適せざりし。十時、道子坊を連れ市場へ。久子に持たせ、一時間余を費やし販宅。

昭和16年9月9日（火）

晴れ。朝、坊を連れ六時より外出。午後一時、簗島局にて年金を受取。折柄、為替窓口、五六名居る。見馴れぬ若者、為替係に配置。保険年金窓口にも、貯金預簿記載の若者あり。郵便窓口に女子二名。是れも見馴れ

ぬ人々従事し居る。電報を送信しつつありしは、従来から居る代理事務員と見らる。受領証は四枚要するに参枚呉れ、不足分、明日他より借受け準備すべしと云ふ。三件十二円受取り、松屋にて接合剤50求め販宅。百貨店、鉄製及び鉄を部分的にも使用しあるものは悉く撤去されたる為、小児用三輪車、小母車、自転車其の他にて誠に寂寥（せきりょう）を感じしめらる。特に菓子類、及び果物類一切空明の態。市内目貫きの天神町と橋口町との売店は、午後一斉に閉店しあるも淋しき限りなり。栗原氏を訪ねんとせしも、不明の俣販宅。

昭和16年9月10日（水）

曇り、後雨。殊に夜に入るに及び、豪雨沛然として風に伴ふて窓を打つ。雨戸を閉鎖せしむ。朝は坊を連れ、外出四十分。坊独りで睡らぬことになりしは、甚だ当惑せり。

昭和16年9月11日（木）

曇り、降雨。洗面器及び菰盆、マッチ鋏み、接合剤にて修理す。此の朝も四十分間程、坊を連れ外出。午後、湯に入らしめたり。蚊帳は階下蚊遣り香を焚き吊らず。二階は最初の日一日のみ吊らざりしも、其の後、毎夜吊るを余儀なくさる。此の夜、夕刊不来。

昭和16年9月12日（金）

曇り、後雨。朝坊を連れ川沿ひに彼岸を廻り帰る。一時間を費やす。久子、新柳町局より年金受領書を得、簗島局より八月分まで受取る。夜に至りて相当多量に降雨あり。坊や克く泣く。東北電力利益配当請求、印鑑相違にて返

送越しあり。此日、夜に至って冷氣加わり綿入れを重ね。
夕刊不来。雨の為、蚊帖湿润す。

昭和16年9月13日（土）

朝降雨、外出不能。終日降っては歇み、止みては降る。
袷着用す。蚊帳吊らず。左程苦にならざりし。小鯛求め
来る。これで二度頂く。此の夜も夕刊不来。小僧（なば
かりの）配達忘れるのか、雨の為に足場が悪いため奥
路へは入らぬのか、兎に角、三日も配達せぬとは困らさ
れる。

昭和16年9月14日（日）

六時より一時間外出。午前十一時四十分頃より再び出掛
け、電車券四区求め、岩田屋を見て、更に玉屋に至る。
是れより曩、電配室にて園田邸内栗原氏を訪ぬ。深切に
教へ呉れる。日立製作所の手前小路を右に、直ぐ夫れ
と知れたるも、邸側面板の扉を押して中に入りたるに、
狗二匹に吠えらる。小犬とて割合に逡巡せざりし。突当
たりの家にて尋ねたるに、栗原氏は竹下に移転されたり
とのことにて失望し、岩田屋に至り玉屋に引返す。人形
は公定相場にて岩田屋と変わらず。2, 10にて睡り人形
を求め、安全剃刀2, 87円、及びレゾル39銭を求め、
四時少し前販る。夕方理髪髭剃り。鯨35銭を五百匁を買
わせたるに、三百匁のみ売り、外に膏味（あぶらみ）50
銭買ってくる。市場に何もなく、其の鯨さえ半狂乱に購入
する状況なりと云ふ。夜再び素麺を余の為に造り呉る。
理髪し居る頃、京子さん遊びに来たり。道子と咄居る。

昭和16年9月15日（月）

午前中好晴。六時より一時間、坊を連れ外出。八時半仕度し、久子切符を買わせに先にやり、余と道子と一緒に出掛け、バスに恰度乗り南新町に下車。久子徒歩の為、一緒になる。一同駅まで行き、余の出発を見送る。余、入口の扉の側にて坊を突き出し挨拶す。道子等、手を挙げて別れを惜しむ。零時半中津着まで、六時間空腹を忍び続け機嫌傾め。着、匆々乳貰いに行く。留市氏、偶然戸外に居り、大いに喜び抱きて我家に入り乳を哺ましむ。両の乳を大方飲み干す。下痢便せし由。かくて五時過ぎ再び乳飲みに行き、湯に入れて頂く。母堂も行かる。十時牛乳遣りたり。七時頃より坊は睡る。一度起きて泣く。ミワさん抱きて再び眠らす。甚十郎さんより速達。ミワさん午後三時、出福せんとするに会す。一日早く、そして九時の汽車に乗りたる為め、行違いにならず。切符も買わずして済みたり。四時より饅頭一円にて局員に馳走す。夕方曇り冷ゆ。襦袢大分乾きたり。星燦然と空晴れたり。此の分なれば、夜露に当たる位にて大方は乾くらしと、其の儘取込まざりし。蚊帖を廃す。

昭和16年9月16日（火）

四時起床。細雨しとすと降り居る。急ぎ乾し物を蔵ふも、折角乾きたる襦袢は再び湿润せしは、頗る余の不明を愧ず。引き続き坊や小便すること頻繁。火にて乾かす。昨夜ミワさん、甚十郎氏に余の手紙とは別に認め、十二時まで起きて居らる。坊も十時乳を遣りし後、一時間前後睡らざりし。五時坊を連れミワさん神詣で。引き続き乳貰ひに行かる。今日は切手請求せず。雨降り歇み、六時頃より曇天の俣持続。夜に至り再び降雨。訂正書挿し換

えをなす。四時の乳貰いは、降雨の為おんぶせらる。午後七時より坊の袖なし胴着、えり福より求む270。外に裕4, 20求め販る。此の日坊に牛乳を与ひず。お乳にて過ごさす。夜、湯を浴びせたり。

昭和16年9月17日（水）

曇り。大貞駅前局長、母堂逝去。五時より告別式。一円香奠。切手請求の際、取締に委託。今日より坊の乳飲みは、7, 11, 4, 8の内、八時を廃し牛乳を与ふることとし、一日三回と定め、横田氏の諒解を得たり。午後九時半より坊に牛乳を遣り、身体を磨き拭ふ。それより味噌を作る。十時を超ゆ。油を多く配合したる為、味美なり。坊、眼覚め今度は容易に睡らず。十一時を過ぐ。

昭和16年9月18日（木）

曇り。十一時頃より、次第に空に碧き部分顕れ、晴れて来る。久し振りの感あり。午前中、勝恵ちゃんの祖母さん小包出しに来たり。余の許に挨拶に来らる。坊に四時過ぎ風呂に連れ行かる。六時に余迎ひに行き、少時俟ちて連れ戻る。坊、声音枯れ風邪気味、熱なし。此日、特別に火を起こさず。湯は魔法瓶に入る。夜の坊の牛乳には、多少温度少々憾みあり。外部より温むる途なき為なり。満州事変十周年。

昭和16年9月19日（金）

晴れ、後曇り。（昨午後八時二十分、満州事変を偲び黙祷一分間）。坊発熱37, 3。中津局に切手請求に行き、零時四十分、坊を連れ相談所に行く。道子より坊の着衣を送付越しに付き、其の着物を着せる。ちゃんちゃんこを

も着せ至る。先生食堂に食事中、福岡行きの模様を質したり。石橋先生は福岡相談所に居らるる由なり。岡部東氏、結核にて数ヶ月欠勤の由。何れも初耳なり。坊や診て頂き、薬をも三日分頂き販る。余り時間を要したる為、ミワさん迎ひに出掛けらる。風強き為、襦袢皆、短時間にて乾く。

昭和16年9月20日（土）

航空記念日。切手請求。快晴、風は頗る強し。台風、八丈島附近より東北に逸走せり。坊は熱、次第に薄らぐ。36, 5（午後二時）。午後七時、坊の便器注文に鍛刀屋に行く。二軒共なし。坊、寝むりた相。魚の辻より引き返し、直裏の金物にて尋ぬ。持ち合わせあり。2, 30円にて求む。琺瑯（ほうろう）物、持ち販り早速使用す。

昭和16年9月21日（日）

予報は晴天なるも、実際は曇り。午後五時頃より晴れ。坊、腹加減悪し。此夜の牛乳を呉れぬこととし、模様を見ることとせり。山本利夫氏より甘藷一貫目、野口さんへ配達あり。定額貯金関係規程、涉獵す。午後一時、日蝕観測陣を張る学徒多し石垣島は、皆虧（かいき）。曇天にて、撮影困難の向き多し。

昭和16年9月22日（月）

午後より多少霽れ。公衆溜まりにてハンドバック盗難事件あり。現金二拾円余入れあり。印章も入れ置ける由。恠（あや）しきは、速達のことを質ね居りたる人物なり云々。局員は速やかに警察に届出づべき旨を注意し、其の人も直に駅前巡查派出所に届出たる由。夕方、其の婦人

が局に来たり、ハンドバックを拾得せりとて届出たるを警察より交付を受けたり。ハンドバック内には猶、五拾銭紙幣一枚残有あり。自分は毎日神詣りし居りしに、近頃、之を欠ける為、斯かる災難を蒙りしものと信じ、神様に参詣しての販途、親戚に立寄り咄し居りし処に、警察から召喚云々。迎えに来たりし故、不取敢、出頭せしにハンドバックを交付され云々。其の婦人の販りし後、森田さんが伊勢さんの咄しに、恰度其の時、麦桿帽がありしを周章持ち去りし者あり。西蛸瀬の某にて、書留小包を差出しに来たりしが、態度頗る不可解なりしと謂はる云々。余は其の咄を聞き、派出所に至りしに巡査不在。本省へ行きしと思はるとのこと故、一旦販局。本省に電話せしも来て居らぬとのことに、再び行きしも依然不在。ペンを引出して書残し販らんとする際、帰り来たりたる為、事情を話し引取りたり。警官は其の際、犯人が中味を抜き取りハンドバックを棄つところを二階の窓より見ており、急ぎて拾得届けたるものの由。戦闘帽を冠り居たりと。後刻九時過ぎ、其の警官局長を訪ね、色々尋ね森田氏に出頭を命じて帰る。十時に森田さん等、湯より販る。余、森田さんを連れ三度派出所に至り、十時半帰局。此夜、宮地岳神社の祭典。ミワさんと坊を連れ行き、針類20求め帰る。

昭和16年9月23日（火）

秋季皇霊祭。曇り勝ち、時に晴れ間あり。綿を昨夜蒲団屋にて発見。今日ミワさん行き求め来らる。頗る粗製、一貫目八円と謂はる。五時過ぎ、坊を風呂に連れ行かる。野口氏等一足先に入り、後よりミワさん等行き、坊を入れて、それを野口氏等連れて来て下さる。どうした理由

か、入浴中も坊は泣き居れる由。販る途中も泣きつつ来る。森田さん閉口せしらし。余抱けば、間もなく睡る。此の夜は割合に克く眠り、襦袢を汚さず。

昭和16年9月24日（水）

終日曇り、時々驟雨の惧れ。切手受取に中津局に行く。切手類持戻る途中降雨、到着。坊や安眠す。南洋パラオ放送局開局。空中状態よく明瞭に聞き取れり。坊、頃日三度人乳の外、牛乳は配達を受くるも与ひず。此夜八時頃より寝る。前夜は襦袢一枚も汚さず。此の夜は一度、取換えしのみ。

昭和16年9月25日（木）

朝の間曇り。坊に魔法瓶の湯にて身体を拭ふ。神様へ詣で六時前販る。午前九時髭剃り、十時の会合に十分前に到着。僅かに四名のみ先着。豊後町、深抹両局長も来会。会議の筋は、鶴居局長の部長辞任の件。保険成績不良云々。目下一戸一件運動に努力を払ひつつあるに、自局の不成績を棚に上げ、他局を指導督励する立場に非ず。乃ち、自反省して忸怩たるのみとの自責心発露と思料せらる。委員を鶴居、今津両局長に依託し、四名の候補者を詮衡し、乃ち山移、三郷、耶馬溪、柿坂の四局を挙げ、上司に報告のこととす。此日、不用書類処分申請書印刷物到着、夫々分配さる。昼食を1,00頂き、一時販局。中津局に切手類の搬出、賃金の請求に赴きたり。漸く晴天となる。夕方再び曇る。甚十郎さん大阪詰めとなり、成子さん本日中に大阪に移転に付き、道子の荷物を如何するやの問題に付き、甚十郎さんと余との意見に隔たりあり。余は峯に、甚十郎さんは二郎に。然るに、

二郎夫妻は仙台に旅行中。荷物は一切預からぬと申せし由。而して、敏子さんより自分の家に引き取るは心易し。但し、道子の分は可成（なるべく）福岡へ持越すべきを主張さる。此夜道子へ手紙やる。

昭和16年9月26日（金）

快晴。庭に陽が射さず。彼岸の終わり、赤飯頂く。為替欠損7、50。前田さん弁償せし如し。十時過ぎ森田氏を座敷に招致。局事務室は、軍人の第一線に在る思ひと隔たりがない緊張を持たねばならぬ。小包を差出人の面前にて投げ遣る如きは、紳士と云ふべからずと注意す。ミワさん独り、湯に行く。給料渡す。

昭和16年9月27日（土）

午前中は猶、晴れ模様。午後より薄雲拡がり、天日を蔽ふ。七時、湯に坊を連れらる。三十分後、迎ひに来る。午後零時、中津局に資金請求と切手類の受取に行く。歸りに、後より余の肩を叩く者あり。お父さんと云ふ。巖なり。荷物を余より取返して自分の肩に掛け、自転車を押して島澤乾物店の前に来たり分かる。豊後町局長退職のこと、既に知り居れり。敏子さんの手紙に、貢の荷物とか道子の荷物とかありし為、平らならざりしも、是れを着物と書くべきものを誤記せしとすれば、何等不快がる筋合いでもないので、荷物は全部保管方依頼することとし、手紙を認めたり。道子にも其の趣、通知せり。

昭和16年9月28日（日）

朝来降雨。五時頃小歇みとなりしも、六時過ぎ沛然（はいぜん）降り出し、襦袢容易に乾かず。夕食後、母堂火

にかけ乾燥さる。政恵さん角野歯科かかり来られ、十一時過ぎ立寄らる。恰も坊安眠し居り、飯りに寄って頂く様懇願。計量せしか勝恵ちゃん二貫百匁、坊は一貫二百余。政恵さん大鰯位の鮮魚、五尾持来らる。右に対し、饅頭5銭の15程求め、土産に遣る。不用書類措置を了す。森田さんミシン午前中休み、午後より行かると。毎朝牛乳を飲み居らる。文夫葉書送り越す。朝鮮に居るものの如し。臨戦地帯にあらざるを以て、有料にて通信あり。腹に浮腫再び出来、痛み甚だし。根を切らぬ為、転位せしものの如し。坊の腹、一向全快を見ず。十時半寢床。

昭和16年9月29日（月）

午前中降雨。坊、神様に連行。蓋し雨の日は従来行かざりしが、おん負が出来てから初めて行けるなり。午後四時頃より曇天の俛、暮る。七時、湯に坊や入れて頂く。余迎えに行く。横田の小母さんも来て居る。坊泣き歇まず。小母さんに入れて貰ひし由。坊容易に睡らず。八時漸く眠る。夕食とろろ汁、麵包を二つ頂く。夜七時半より常会。ミワさん湯に行き不在中。一度迎えに来る。其の後、小供わいわい来る。瀬口氏宅とあり。問題は金属類回収の件、砂と水を常備の件、其の他にて九時半頃閉会。

昭和16年9月30日（火）

曇天の儘夜に至る。五時頃より細雨。前田さん一昨日も欠損、本日も同様。是れでは果たして服務可能なりやも疑わし。向いより家賃拾円呉れたる由。神様の酒、裏の島澤の若奥さん売って呉れたる由。坊、午後五時半行きたる際、政恵さん湯に行き二十分程待ち、其の為か、乳呑み中途より睡り、満腹に至らざる内、離乳させられし如

く、販りはおん負しつつ泣きて帰宅。さて余寝かすに容易に眠らず。抱き寝するもだめ。冷水浴させて再び寝かす。八時半頃、漸く眠る。定額貯金奨励、ミワさん活動す。道子より葉書。十月中旬来るを待つ。坊は自分等育てて見る。病気は一ヶ月も入院の要ありと云ふ故、医師に診せぬことにせりとあり。貢氏よりも来翰。余に宜敷くとありとて、余よりも手紙を出して呉れるやう慫慂越せり。